

桐生短期大学における栄養教諭養成課程の現状とその課題

Current State of Nutrition Teacher Training Course in Kiryu Junior College
and Its Problems

橋本 まさ子, 石井 広二, 中島 君恵, 松岡 千枝子

要 約

食に関する指導の充実をめざし、栄養教諭制度が2005（平成17）年に新たに創設された。桐生短期大学でも、栄養教諭の養成を開始し、2007（平成19）年3月に最初の卒業生を送り出した。ここでは、栄養教諭を取巻く現状の調査と本学栄養教諭課程を履修した卒業生へのアンケート調査を通して、本学の栄養教諭課程の現状について問題点を整理し、今後取り組むべき課題について論じた。

キーワード：栄養教諭，食育，学校給食

はじめに

栄養教諭制度は、「食に関する指導」の充実を目的として、学校栄養職員の持つ食に関する専門性に加え教育に関する資質能力を身につけたものが、学校における食に関する指導を担えるように、2004（平成16）年1月の中央教育審議会の答申で創設が提案された。その後、2004（平成16）年5月に学校教育法、学校給食法の一部が改正され、2005（平成17）年4月に創設された¹⁾。

それまでは、学校給食の管理業務を主に行ってきた学校栄養職員が食に関する指導の一部を担ってきたが、栄養教諭制度の創設により、栄養教諭が「食に関する指導」と「学校給食の管理」を職務としておこなうようになり、教諭、養護教諭と並び児童生徒に対する指導を直接的に担う立場として位置づけられた²⁾。栄養教諭の職務内容のうち、「食に関する指導」では、児童生徒への教科・特別活動等における教育指導、児童生徒への個別的な相談指導、食に関する教育指導の連携・調整が挙げられ、「食に関する指導」を通して栄養教諭が担う役割として、個々の児童生徒が抱える問題を改善する方向へ支援すること、学校給食を通して実体験を伴う望ましい食経験を支持し、子どもたちの望ましい食習慣を促すこと、子どもたちが学校教育の中で望ましい食習慣を身に付けるために学んだ知識・技術を実践できるような環境を整えること、ひいては

家庭・地域社会の健康増進に寄与することとされている。下記の図-1は、「食に関する指導の充実と栄養教諭に期待される役割」についての参考資料である³⁾。

2005（平成17）年4月から、栄養教諭に係わる課程認定を受けた大学・短期大学等の教員養成機関において、栄養教諭の養成が始まった。しかしながら短期大学の現状において、栄養士、栄養教諭の両方の免許を取得することは実に厳しい履修状況であり、履修時間の限られている短大生が実践力を形成するには、理論とともに多くの実践事例を通しての習得が必要とされ、またそれにより教育効果が期待できる⁴⁾。

桐生短期大学生生活科学科健康栄養コースにおいても2005（平成17）年度入学生から栄養教諭二種免許の取得ができるようになった。そこで、ここでは本学の栄養教諭二種免許課程の現状についてと栄養教諭二種免許を取得した最初の卒業生に対して実施した「栄養教諭に関する意識調査」アンケート結果について報告する。

方 法

栄養教諭の現状と本学の栄養教諭取得状況に関する調査、及び栄養教諭二種免許を取得し2007（平成19）年3月に卒業した学生（10名）の「栄養教諭に関する意識調査」について、アンケートによる調査を実施した。

食に関する指導の充実と栄養教諭に期待される役割

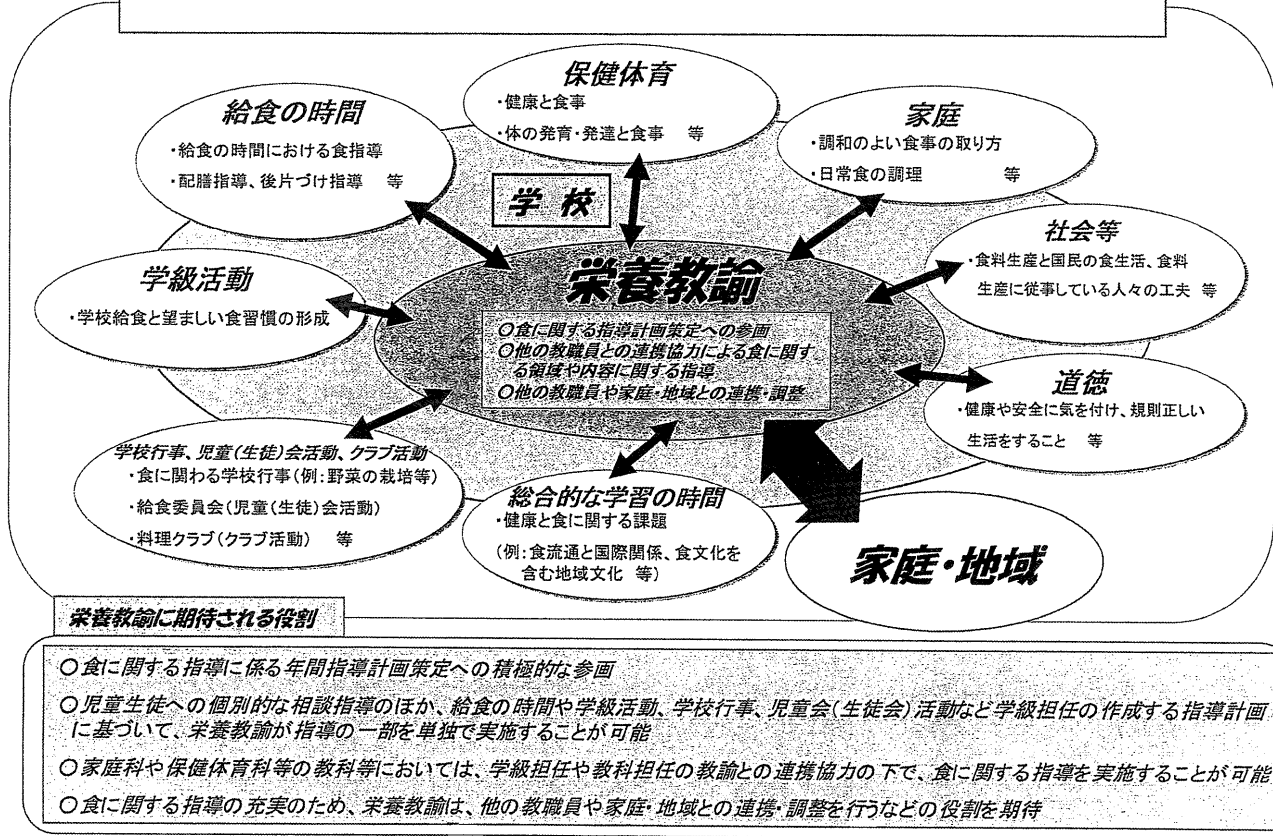


図-1. 食に関する指導の充実と栄養教諭に期待される役割 (文部科学省・栄養教諭の育成・免許制度に関する説明会資料)

表-1. 平成17～19年度の栄養教諭の配置状況

(単位:人)				(単位:人)			
都道府県名	平成17年度 (*1)	平成18年度 (*1)	平成19年度 (*2)	都道府県名	平成17年度 (*1)	平成18年度 (*1)	平成19年度 (*2)
北海道	10	67	194	滋賀県		4	11
青森県			6	京都府		58	91
岩手県			17	大阪府	9	9	20
宮城県		3	10	兵庫県			51
秋田県		1	4	奈良県			10
山形県		1	5	和歌山県			3
福島県			12	鳥取県 (*3)			
茨城県		10	20	島根県			14
栃木県			9	岡山県		3	9
群馬県			6	広島県			10
埼玉県		5	10	山口県		7	16
千葉県		5	10	徳島県		9	17
東京都				香川県		5	5
神奈川県			8	愛媛県		16	41
新潟県			2	高知県	5	11	15
富山県		1	4	福岡県		9	40
石川県 (*3)		4	4	佐賀県		3	5
福井県	10	32	30	長崎県			12
山梨県			5	熊本県			15
長野県			5	大分県			7
岐阜県			4	宮崎県		6	11
静岡県				鹿児島県		69	144
愛知県		10	10	沖縄県			4
三重県		11	48				
				合計	34	359	974

*1 平成17、18年度については、それぞれ年度末における配置現人数
 *2 平成19年度については、4月1日現在の配置現人数
 *3 石川県については、19年度中に追加配置予定、鳥取県については、19年度中に配置予定

表-2. 平成19年度の栄養教諭配置状況全国比較（平成19年度学校基本調査速報より作成）

区 分	栄養教諭 配置数	公立小中学校、 中等教育学校、 特別支援学校 数	栄養教諭1 人あたりの 担当校数	児 童 生徒数	栄養教諭 1人あたりの 担当児 童生徒数	教員数	全教員に対す る栄養教諭の 比率	栄養教諭1人 あたりの担当 校数全国順 位	栄養教諭1人 あたりの担当 児童生徒数 全国順位	全教員に対 する栄養教諭 の比率全国 順位
	A(人)	B(校)	B/A(校)	C(人)	C/A(人)	D(人)	D/A×100(%)			
全 国	974	33,541	34	10,448,754	10,728	712,008	0.14%			
北海道	194	2,066	11	438,506	2,260	35,170	0.55%	4	3	3
青 森	6	568	95	124,786	20,798	10,100	0.06%	33	29	31
岩 手	17	640	38	117,105	6,889	9,745	0.17%	15	10	10
宮 城	10	700	70	197,598	19,760	14,230	0.07%	26	27	27
秋 田	4	431	108	89,258	22,315	7,408	0.05%	35	30	33
山 形	5	483	97	101,768	20,354	7,848	0.06%	34	28	28
福 島	12	806	67	188,723	15,727	14,370	0.08%	24	22	22
茨 城	20	831	42	258,499	12,925	18,005	0.11%	17	19	19
栃 木	9	597	66	171,707	19,079	12,236	0.07%	23	26	26
群 馬	6	546	91	177,537	29,590	11,991	0.05%	32	35	34
埼 玉	10	1,284	128	590,727	59,073	33,527	0.03%	39	41	41
千 葉	10	1,271	127	488,327	48,833	30,292	0.03%	38	40	39
東 京	-	2,021		788,583		48,358				
神奈川	8	1,326	166	675,695	84,462	39,462	0.02%	43	43	43
新 潟	2	836	418	204,024	102,012	15,311	0.01%	44	44	44
富 山	4	305	76	91,278	22,820	6,590	0.06%	28	31	30
石 川	4	352	88	101,139	25,285	7,079	0.06%	31	33	32
福 井	30	307	10	73,578	2,453	5,754	0.52%	3	4	4
山 梨	5	325	65	77,311	15,462	5,884	0.08%	22	21	21
長 野	5	606	121	192,235	38,447	13,849	0.04%	37	38	38
岐 阜	4	592	148	187,409	46,852	12,705	0.03%	41	39	40
静 岡	-	827		319,158		19,690				
愛 知	10	1,428	143	641,968	64,197	37,006	0.03%	40	42	42
三 重	48	624	13	160,321	3,340	11,856	0.40%	6	6	6
滋 賀	11	350	32	127,567	11,597	8,918	0.12%	12	17	16
京 都	91	635	7	200,549	2,204	14,529	0.63%	2	2	2
大 阪	20	1,527	76	716,925	35,846	43,266	0.05%	29	36	35
兵 庫	51	1,218	24	471,594	9,247	30,566	0.17%	8	12	12
奈 良	10	337	34	116,536	11,654	8,207	0.12%	13	18	17
和 歌 山	3	454	151	87,373	29,124	7,277	0.04%	42	34	36
鳥 取	-	233		51,355		4,622				
島 根	14	373	27	61,175	4,370	6,114	0.23%	9	9	9
岡 山	9	608	68	166,825	18,536	11,997	0.08%	25	25	25
広 島	10	860	86	235,671	23,567	15,707	0.06%	30	32	29
山 口	16	541	34	119,543	7,471	9,580	0.17%	14	11	11
徳 島	17	376	22	64,074	3,769	5,766	0.29%	7	7	7
香 川	5	288	58	84,202	16,840	6,274	0.08%	20	24	24
愛 媛	41	519	13	122,805	2,995	9,523	0.43%	5	5	5
高 知	15	447	30	59,110	3,941	6,175	0.24%	11	8	8
福 岡	40	1,159	29	422,903	10,573	26,757	0.15%	10	14	13
佐 賀	5	298	60	80,222	16,044	6,008	0.08%	21	23	23
長 崎	12	613	51	131,600	10,967	10,240	0.12%	19	16	18
熊 本	15	654	44	162,398	10,827	12,122	0.12%	18	15	15
大 分	7	511	73	100,579	14,368	8,216	0.09%	27	20	20
宮 崎	11	432	39	103,869	9,443	7,967	0.14%	16	13	14
鹿 児 島	144	883	6	152,611	1,060	13,462	1.07%	1	1	1
沖 縄	4	453	113	152,028	38,007	10,249	0.04%	36	37	37

結果と考察

前頁の表-1は、文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課による、季刊栄養教諭第8号⁵⁾より引用したものである。栄養教諭の配置は各教育委員会の判断により決定されるが、これによると実際に配置した県は創設時の平成17年度4県から着実に増加し、平成19年度4月1日現在では44県となっている。また、本学の位置する群馬県でも、平成19年度にはじめて6名の栄養教諭が配置された。その内訳は、群馬県教育委員会指導主事1名、および前橋市・高崎市・藤岡市・みどり市・利根郡みなかみ町において各1名の配置であった。一方で、「平成19年度学校基本調査速報」を基に、栄養教諭の配置が必要と考えられる全国の公立小中学校、中等教育学校、特別支援学校の結果より作成した表-2からは、「栄養教諭1人あたりの担当校数」「栄養教諭1人あたりの担当児童生徒数」「全教員に対する栄養教諭の比率」についてすべての項目で群馬県の状況は全国平均より低い状況である。実際に今年度は配置された初年度であり、また教育委員会に配置されているなど、単純に比較できない部分はあるが、これから本学が栄養教諭養成を行っていくうえで、群馬県教育委員会との連携は必要不可欠であると考えられる。

次に表-3には、本学の栄養教諭二種免許取得に必要な科目の一覧を示した。栄養教諭二種免許状の取得には、短期大学士の学位（62単位以上、そのうち日本国憲法（2単位）、情報機器の操作（2単位）、英会話（2単位）、体育（2単位）含む）および栄養士免許を基礎資格としており、その他「栄養に係る教育に関する科目」2単位、「教職に関する科目」12単位の計14単位が必要であるが、本学ではこのように設定した。また、本学では栄養士取得のための校外実習と栄養教諭の栄養教育実習との関連性を重視し、栄養教諭を希望している学生に対しては、校外実習2単位のうち1単位をまず学校給食施設で学校栄養職員が行っている「給食の運営」における給食計画への参画、栄養管理や衛生管理、検食、調理指導、物資管理等の専門的な実習内容と調理・献立作成を経験する。次に栄養教諭のための教育実習が実施できる、特色ある内容のカリキュラムとしている。

図-2には、昨年度の卒業生の栄養教諭所得状況を示した。栄養教諭免許取得者は、13%（77名中10名）であった。本学において、栄養教諭免許状を取得するためには、栄養士必修科目50単位、栄養教諭二種免許科目16単位が必要であり、また栄養教育実習に行くため

表3. 栄養教諭二種免許取得に関する開講科目

栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭論（2単位）
教職に関する科目	教師論（2単位）
	教育学（1単位）
	教育心理学（2単位）
	道德教育及び特別活動の研究（1単位）
	教育課程及び教育方法論（1単位）
	生徒指導論（1単位）
	教育相談（2単位）
	総合演習（2単位）
	栄養教育実習事前・事後指導（1単位）
	栄養教育実習（1単位）

※下線は中学校教諭二種免許（家庭科）と共通で開講されている

には、1年前期終了時に、所定の単位を修得していることを必要条件としているため、このような結果になったものと考えられる。以降の質問については栄養教諭免許を取得した卒業生が対象である。

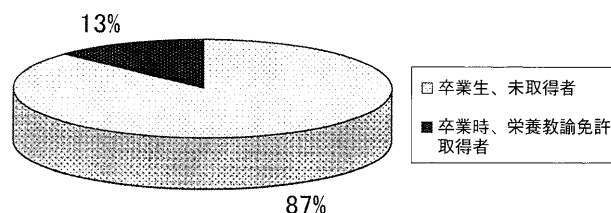


図-2. 栄養教諭免許取得状況

図-3には、栄養教諭を知った時期についての質問結果を示した。半数以上の学生が、入学以前ではなく、入学時のガイダンス等で知ることができたと思われる。これは、今回の対象となる卒業生が、栄養教諭制度の創設が決定された平成16年度に入試をおこなっており、その段階では、教育の現場においてさえも新しい制度の概要が理解されていなかったことを考慮すると、当然の結果として考えられる。その中で栄養教諭免許を取得した学生の4割が入学以前に名前だけでも知っていたことは、彼女らの意識の高さが伺える点であるといえる。

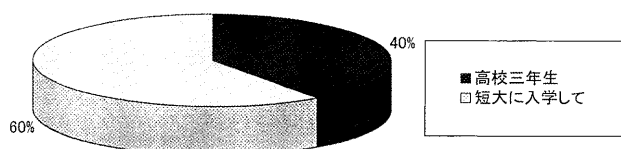


図-3. 栄養教諭を知った時期

図-4には、栄養教諭の免許を取得したいと思った時期について示した。栄養教諭免許を取得した多くの学生は短期大学に入学してからの取得希望である。この結果については、大橋の研究と類似するものであった⁷⁾。

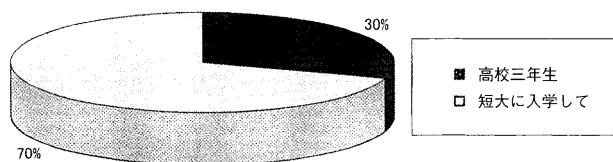


図-4. 栄養教諭の免許を取得したいと思った時期

表-4は、「栄養教諭論」開講期間中における栄養教諭の仕事内容についての質問である。「授業」「給食」「食育」「学校」などのキーワードが多くみられた。このような言葉からは、学生たちはガイダンスや栄養教諭論の講義において得られた知識と、9年間自分たちが給食を食べたときに感じた影響が強く反映された結果となっていることがわかり、栄養教諭における具体的なことならについての理解は十分にはできていないものと想像される。

表-4. 栄養教諭の仕事（栄養教諭論開講期間中）

項	目
家庭科や学活、給食の時間に食についての授業や話をする	こと
給食などの生きた教材を利用して子どもたちに指導すること	
食育を中心に、子どもたちに食に興味をもってもらう	
給食などの生きた教材を利用して授業をしたり、学校の栄養士の役割をすること	
栄養指導、病院栄養士の学校バージョン	
栄養指導	
食育（食事の指導）	
給食センターで給食を考え、時々学校に指導に行くような感じである	

表-5は、教科「栄養教諭論」の講義が終了した後の、栄養教諭の仕事内容についての質問である。「授業」「給食」「食育」「栄養士」などのキーワードが多くみられた。このような言葉の中からは、教育現場における栄養教諭の具体的な役割について、残念ながら十分に理解ができておらず、具体的な実情での指導内容をもっと網羅して、何回も指導する必要性を感じた。

表-5. 栄養教諭の仕事（栄養教諭論終了後）

項	目
家庭科や学活、給食の時間に食についての授業や話をする	こと
食についての専門的な知識を活かして、実際の給食を生きた教材として使用し指導する	
授業、栄養士の役割もするので大変と思いました	
食に対する授業	
給食、生徒、先生と連携して指導していく	
給食を教材として使い、食育の中心となって子どもたちに教える	
食育（生活の指導）	
重要な教科であると思った	
学校給食という特性を踏まえて、給食を通じた実践的で継続的な指導を行う	

表-6は、教育実習を経験後に実施した、栄養教諭の仕事内容についての質問である。「児童」「生徒」を中心としたキーワードが多くみられた。このような言葉の中から、児童生徒に対して食・健康・栄養について実際に指導し、一緒に体験してきた様子が見え、そして教育現場での栄養教諭の仕事とその中で期待されている役割の重要性が生の声として具体的に現れている。

表-6. 栄養教諭の仕事（教育実習を経験して）

項	目
児童を通して、家庭にも呼びかけなくてはならない	
食についての知識を伝える	
生徒の健康のために日頃からよく観察して、何を知らせるべきか考えていると思った	
栄養の食に対する指導は去ることながら、いかに食の大切さを伝えていくか	
今の食生活がよりよくなるよう、先生という立場に立ち、指導していくもの	
食育（食事の問題を解決し、良い食生活を守り病気から子どもたちを守る	
子どもの実態を身近に感じ、献立作成や栄養指導に活かす	

表-7は、教育実習後、良かった点についての質問である。「児童生徒とのコミュニケーション」を通して教師のやりがいを感じ、また児童生徒に対しての授業を実施した経験が「自分自身」の成長につながったなど全体的に喜びとしての回答であったものと思われる。全ての学生が教育実習をして何らかの形で良い経験をしたことがわかる。

表-7. 教育実習を経験して良かった点

項	目
指導案通りにはならないこと	
児童とのコミュニケーション	
授業ができ、生徒に理解してもらったこと	
自分に自信がついた	
生徒と触れ合えたこと	
経験できたこと	
栄養教諭の仕事にやりがいを感じた	

表-8は、教育実習で、失敗したことについての質問である。学生たちは「視野の狭さ」「知識不足」「授業が計画通りにできない」など、日常の学生生活では、わからない経験ができ、将来において必要となるものが何か具体的に変わったものと思われる。またこの点に関しては、われわれ養成機関側でも講義や演習を通して十分に指導していかなければならないことであり、今後の指導方法について考えさせられるものである。

表-8. 教育実習を経験して失敗したこと

項 目	人 数
指導案の書き方（授業とは違っていただけから）	1
視野の狭さ、事前準備	3
授業が計画通りに行うことができなかった	3
知識不足	3

図-5は、将来栄養教諭になりたいか否かについての質問である。55%と半数以上の学生がなりたいと答えている。また、9%の学生は、栄養士として自信が持てるようになったらなりたいと希望した。このように栄養教諭の教育実習を経験して、栄養教諭の魅力を感じ、将来はそのような職種に就くことを希望しているものと思われた。しかしながら、自信が無いという意見には、われわれ養成機関側での指導方法の検討も必要であり、少しでも学生たちが自信を持って、自分の希望がかなえられるような実力を付けさせられるようにしていかなければならないと感じた。

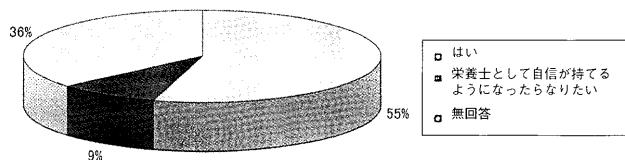


図-5. 将来栄養教諭になりたいですか

図-6には、栄養教諭免許を取得した学生の就職状況を示した。80%と多くの学生が栄養士として就職した。内1名は、学校給食施設での就職をした。このように多くの学生が栄養士として就職し、その中でも過半数以上の学生が、将来栄養教諭として働きたいと希望している。

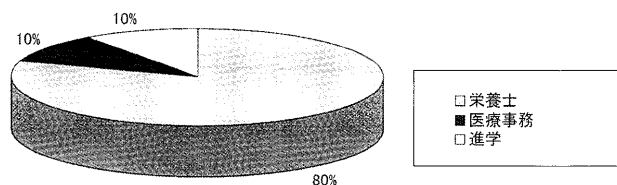


図-6. 卒業式の就職状況

まとめと今後の課題

栄養教諭制度は、誕生したばかりの新しい資格ではあるが、栄養教諭に対する期待と責務は非常に大きいものと思える。そのことは、今回実施した本学学生の意識調査より、栄養教諭免許を希望した学生の多くが教育実習を終えると、魅力のある職種と考え、将来は栄養教諭として働くことを希望しているという調査結果からも理解できるが、その一方で、二年間の短大でのカリキュラムでは、その責務の重さから自信を持っ

て働くことに厳しさを感じているということも同時にわかった。

本学では、栄養士のための実習として、学校給食施設で栄養士の職務内容を経験し、次に栄養教諭のための教育実習が行えるような、特色のある系統的な内容のカリキュラムとしているが、この点については今後さらに内容を検討し、実りのある実習ができるようにしていきたいと思う。

また、このように小学生・中学生という心身の成長過程において重要な時期に、生きた教材である学校給食を最大限に活用しながら「食に関する指導」を行うことは、栄養教諭だけにできる重要な役割であると言える。そのため、栄養教諭養成に携わるわれわれは、学生たちに対して、栄養教諭の役割がいかに重要であり、必要な資格であるかを正しく理解させるため、今後も教育内容や方法を検討し、指導していかなければならないと感じた。

引用文献

- 1) 金田雅代：栄養教諭論。建帛社（東京）、2005。
- 2) 永嶋久美子：栄養教諭の現状。川村学園女子大学研究紀要, 17 (2) : 115-133, 2006。
- 3) 川戸喜美枝：栄養教諭は何をすべきか。ぎょうせい（東京）、2005。
- 4) 中西忍, 松月教子ら：食育における行動科学・カウンセリングの必要性—栄養教諭創設にむけて—。食物学会誌, 59 : 21-29, 2004。
- 5) 板倉洋子：季刊「栄養教諭」の利用。季刊栄養教諭, 8 : 90-91, 2007。
- 6) 宮内健二：季刊栄養教諭の資格取得について。季刊栄養教諭, 2 : 90-91, 2006。
- 7) 大橋伸次：栄養教諭志望学生の意識調査。国際学院埼玉短期大学研究紀要, 27 : 127-130, 2006。

Current State of Nutrition Teacher Training Course in Kiryu Junior College and Its Problems

Masako Hashimoto, Hiroji Ishii, Kimie Nakajima, Chieko Matsuoka

Abstract

The nutrition teacher licensing system was newly founded in 2005 for the enhancement of nutrition education. Kiryu Junior College then started a nutrition teacher training course, and the first student who obtained a nutrition teacher license graduated in March of 2007. In this study, we clarified the current state and problems of the nutrition teacher training course at KJC through surveys conducted on students who completed the nutrition training course. Task needed to grapple with this problem were also discussed.

Keywords: Nutrition teacher, Nutrition education, School lunch